

「チキチキバンバン」てナニ？

大好評だった「メリーポピンズ」から4年後の1968年に公開された「チキチキバンバン」は、まるでディズニー映画のような楽しいミュージカルファンタジーですが、イギリスのユナイテッド・アーティスツの映画です。

主役のディック・ヴァン・ダイクをはじめ、「メリーポピンズ」の制作に係った多くのスタッフが集まりました。

音楽担当は、「メリーポピンズ」など、多くのディズニー映画の音楽を担当したシャーマン兄弟です。

兄のロバート・シャーマンが作詞を、弟のリチャード・シャーマンが作曲を担当しました。因みに、楽譜にある日本語歌詞は、サントワマミー、愛の賛歌、マイウエイなど多くの作詩をした岩谷時子さん（1916～2013）の訳詞です。

そういえば「チキチキバンバン」という意味不明の言葉を取り入れたところなど「スパカリフラジリスティック～」と似ていますね。

「スパカリ～」の方はシャーマン兄弟による造語ですが、「チキチキバンバン」という言葉は、イアン・フレミング（1908～1964）原作の「チキチキバンバン 魔法のくるま」という童話から採っています。

イアン・フレミングはスパイ小説「007 シリーズ」の作者としても有名です。

フレミングの童話が発表される前の1920年代初頭のイギリスで、「チキチキバンバン」という名の車がイギリスで有名なレーシングカーとして実在していました。



1920年代初頭に実在したレーシングカー
「チキチキバンバン」号

メルセデスのシャーシーに航空機用の大出力エンジンを積んだ特注車で、当時のレーシング界で派手に活躍したそうです。

自動車好きだったフレミングは、このレーシングカーを題材にしました。

つまり「チキチキバンバン」とは、実在したレーシングカーの名前がその起源でした。

さて、「チキチキバンバン」とは、擬人化した自動車の名前であることは分かりますが、ではなぜ「チキチキバンバン」なのでしょう？

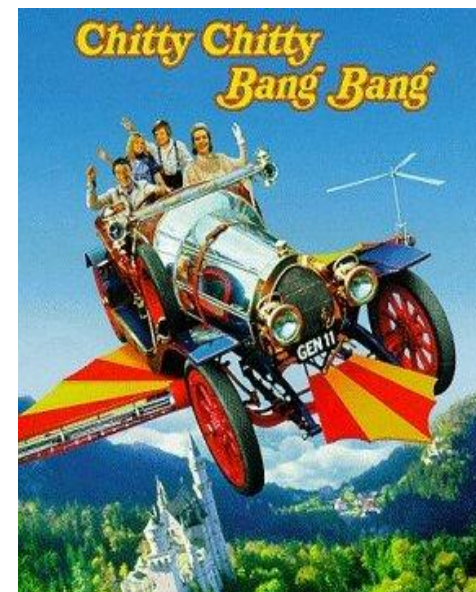
「チキチキバンバン」とは自動車の排気音の擬音とされています。

「チキチキ」は自動車のエンジンを始動する時のセルの音です。

自動車のエンジンをかけるとき、「チュルチュル、チュルチュル」とセルの音がしますが、元歌も「チュルチュルバンバン」と歌っているように聞えます。

そして「バン、バン、バンバババ……」とエンジンが凄いの爆音を轟かせて回り出した！と、そんなイメージです。

12気筒、8000ccのエンジンに、翼を持ち、オスプレーのようなプロペラで垂直自在の飛行機能を備えて、スクラップ寸前のオンボロ車を改造したとは思えない凄い自動車なのです！



原題は「Chitty Chitty Bang Bang」ですから、その通りに発音すれば「チティ チティ バン バン」となりますが、当時ユナイテッド映画の宣伝部長だった水野晴郎さんは、日本語題名を、誰にでも言い易いように「チキチキバンバン」としました。

歌に歌われている通り「チキチキバンバン」は、魔法が使える、意思をもって走行し、空を飛べる夢の自動車です。

ストーリーの楽しさにもまして、この主題歌のノリのよさは秀逸です！

映画が見たくて、先日DVDを買いました。とても楽しい映画です。

見たい方にはお貸しいたしますのでどうぞ。